

平成28年度

芦原温泉上水道財産区水道事業会計
決算審査意見書

あわらし市監査委員

あ 監 委 第 80 号

平成29年 8 月 18 日

あわら市長 橋 本 達 也 様

あわら市監査委員 近 藤 茂

あわら市監査委員 向 山 信 博

平成28年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された平成28年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算について審査したので、その結果について次のとおり意見書を提出する。

平成28年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計歳入歳出決算審査意見

第1 審査の対象

平成28年度芦原温泉上水道財産区水道事業会計決算

第2 審査の期間

平成29年7月10日

第3 審査の方法

審査に当たっては、決算報告書及びその附属書類が、関係法令に準拠して作成され企業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、予算執行及び会計処理が適正であるかなどに主眼を置き、関係書類の照合確認を行うとともに、関係部局から決算についての説明を聴取するなどの方法により実施した。

第4 審査の結果

審査に付された各会計の決算報告書及びその附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、その計数は関係書類と符合し経営成績及び財政状態を適正に表示しており、また、予算執行及び会計処理は総じて適正であると認められた。

第1 業務実績について

給水状況は前年度に比べて、給水戸数が10戸増加し2,155戸となり、給水人口は総人口が減少しているのに伴って40人減少し、2,897人となっている。

年間総配水量は10,401m³ (0.8%) 減少し126万6,858m³となった。また、年間有収水量も、23,873m³減少し119万2,474m³となり、有収率は前年度に比べ1.1ポイント減少し、94.1%となった。

なお、主な業務実績は次表のとおりである。

主 な 業 務 実 績

区 分		平成27年度	平成28年度	増減値	増減率
普及 状況	総 人 口 (A)	28,969 人	28,641 人	△ 328 人	△ 1.1 %
	給 水 戸 数	2,145 戸	2,155 戸	10 戸	0.5 %
	給 水 人 口 (B)	2,937 人	2,897 人	△ 40 人	△ 1.4 %
	普 及 率	100.0 %	100.0 %	0 ポイント	0.0 %
年間総配水量 (C)		1,277,259 m ³	1,266,858 m ³	△ 10,401 m ³	△ 0.8 %
年間有収水量 (D)		1,216,347 m ³	1,192,474 m ³	△ 23,873 m ³	△ 2.0 %
一日配水能力 (E)		14,150 m ³	14,150 m ³	0 m ³	0.0 %
一日最大配水量 (F)		5,324 m ³	4,712 m ³	△ 612 m ³	△ 11.5 %
一日平均配水量 (G)		3,490 m ³	3,471 m ³	△ 19 m ³	△ 0.5 %
導送配水管延長 (H)		32,045 m	32,034 m	△ 11 m	△ 0.0 %
有 収 率 (D/C)		95.2 %	94.1 %	△ 1.1 ポイント	△ 1.2 %
施 設 利 用 率 (G/E)		24.7 %	24.5 %	△ 0.2 ポイント	△ 0.8 %
負 荷 率 (G/F)		65.6 %	73.7 %	8.1 ポイント	12.3 %
最 大 稼 働 率 (F/E)		37.6 %	33.3 %	△ 4.3 ポイント	11.4 %
配水管使用効率 (C/H)		39.9 %	39.5 %	△ 0.4 ポイント	△ 1.0 %

第2 予算執行について

1 収益的収入

28年度の収益的収入は、予算額1億8,444万1千円に対し決算額は1億8,223万3千円で、220万8千円(1.2%)の減となっている。

収益的収入予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 水道事業収益	184,441	182,233	△ 2,208	△ 1.2
1 営業収益	177,307	174,922	△ 2,385	△ 1.3
2 営業外収益	7,134	7,311	177	2.5

(注) 決算額には、仮受消費税及び地方消費税 1,288万5千円を含む。

2 収益的支出

28年度の収益的支出は、予算額1億7,261万4千円に対し決算額は1億6,936万7千円で、執行率98.1%となっており、324万7千円の不用額を生じている。

収益的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	不用額	執行率
1 水道事業費用	172,614	169,367	3,247	98.1
1 営業費用	169,001	166,120	2,881	98.3
2 営業外費用	3,302	3,237	65	98.0
3 特別損失	11	9	2	81.8
4 予備費	300	0	300	

(注) 決算額には、仮払消費税及び地方消費税696万3千円を含む。

3 資本的収入

28年度の資本的収入は、予算額24万5千円 に対し決算額は25万2千円で、7千円(2.9%)の増となっている。

資本的収入予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	増減額	増減率
1 資本的収入	245	252	7	2.9
1 工事負担金	245	252	7	2.9
2 他会計負担金	0	0	0	—

(注) 決算額は、仮受消費税及び地方消費税 1万9千円を含む。

4 資本的支出

28年度の資本的支出は、予算額5,630万円に対し決算額は5,097万円、執行率90.5%となっており、533万円の不用額を生じている。

資本的支出予算決算対照表

(単位：千円、%)

区 分	予算額	決算額	繰越額	不用額	執行率
1 資本的支出	56,300	50,970	0	5,330	90.5
1 建設改良費	56,300	50,970	0	5,330	90.5
(1) 取水設備改良費	27,961	25,160	0	2,801	90.0
(2) 送水設備改良費	1,000	400	0	600	40.0
(3) 配水設備改良費	6,940	5,358	0	1,582	77.2
(4) 営業設備費	256	256	0	0	100.0
(5) 事務費	20,143	19,796	0	347	98.3

(注) 決算額は、仮受消費税及び地方消費税 269万9千円を含む。

なお、資本的収支において、資本的収入額が資本的支出額に不足する額5,071万8千円は、当年度分損益勘定留保資金3,191万1千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額268万円、建設改良積立金913万5千円及び繰越利益剰余金処分量699万2千円で補てんしている。

第3 経営成績について

1 経営成績の概況

28年度の損益計算書を前年度と比較すると次表のとおりである。

損益計算書前年度比較表

(単位：千円、%)

区 分	平成27年度	平成28年度	増減額	増減率
営業収益	165,598	162,045	△ 3,553	△ 2.1
給水収益	162,836	159,835	△ 3,001	△ 1.8
受託工事収益	109	255	146	133.9
その他営業収益	2,653	1,955	△ 698	△ 26.3
営業費用	154,912	159,157	4,245	2.7
原水及び浄水費	81,541	79,764	△ 1,777	△ 2.2
配水及び給水費	5,544	5,111	△ 433	△ 7.8
受託工事費	57	128	71	124.6
総 係 費	29,962	34,706	4,744	15.8
減価償却費	35,437	38,717	3,280	9.3
資産減耗費	651	185	△ 466	△ 71.6
その他営業費用	1,720	546	△ 1,174	△ 68.3
営業利益	10,686	2,888	△ 7,798	△ 73.0
営業外収益	8,087	7,303	△ 784	△ 9.7
受取利息及び配当金	257	122	△ 135	△ 52.5
長期前受金戻入	7,028	6,992	△ 36	△ 0.5
雑 収 益	802	190	△ 612	△ 76.3
営業外費用	0	0	0	—
雑 支 出	0	0	0	—
経常利益	18,773	10,191	△ 8,582	△ 45.7
特別損失	18	9	△ 9	△ 50.0
過年度損益修正損	18	9	△ 9	△ 50.0
その他特別損失	0	0	0	皆減
当年度純利益	18,755	10,182	△ 8,573	△ 45.7
前年度繰越利益剰余金	66,174	76,813	10,639	16.1
当年度未処分利益剰余金	84,929	86,995	2,066	2.4

営業収益は、前年度に比べて 355 万 3 千円 (2.1%) 減少し、1 億 6,204 万 5 千円となった。これは主に、給水収益が 300 万 1 千円 (1.8%) 減少したことによるものである。

営業費用については、1 億 5,915 万 7 千円であり、424 万 5 千円 (2.7%) の増となった。これ

は主に、原水及び浄水費が前年度に比べ 177 万 7 千円 (2.2%) 減少したものの、総係費が 474 万 4 千円 (15.8%)、減価償却費が 328 万円 (9.3%) それぞれ増加したためである。

また、営業収益から営業費用を控除した営業利益は 288 万 8 千円となり、前年度に比べて 779 万 8 千円 (73.0%) 減少している。

営業外収益は、前年度に比べて 78 万 4 千円 (9.7%) 減少し、730 万 3 千円となった。

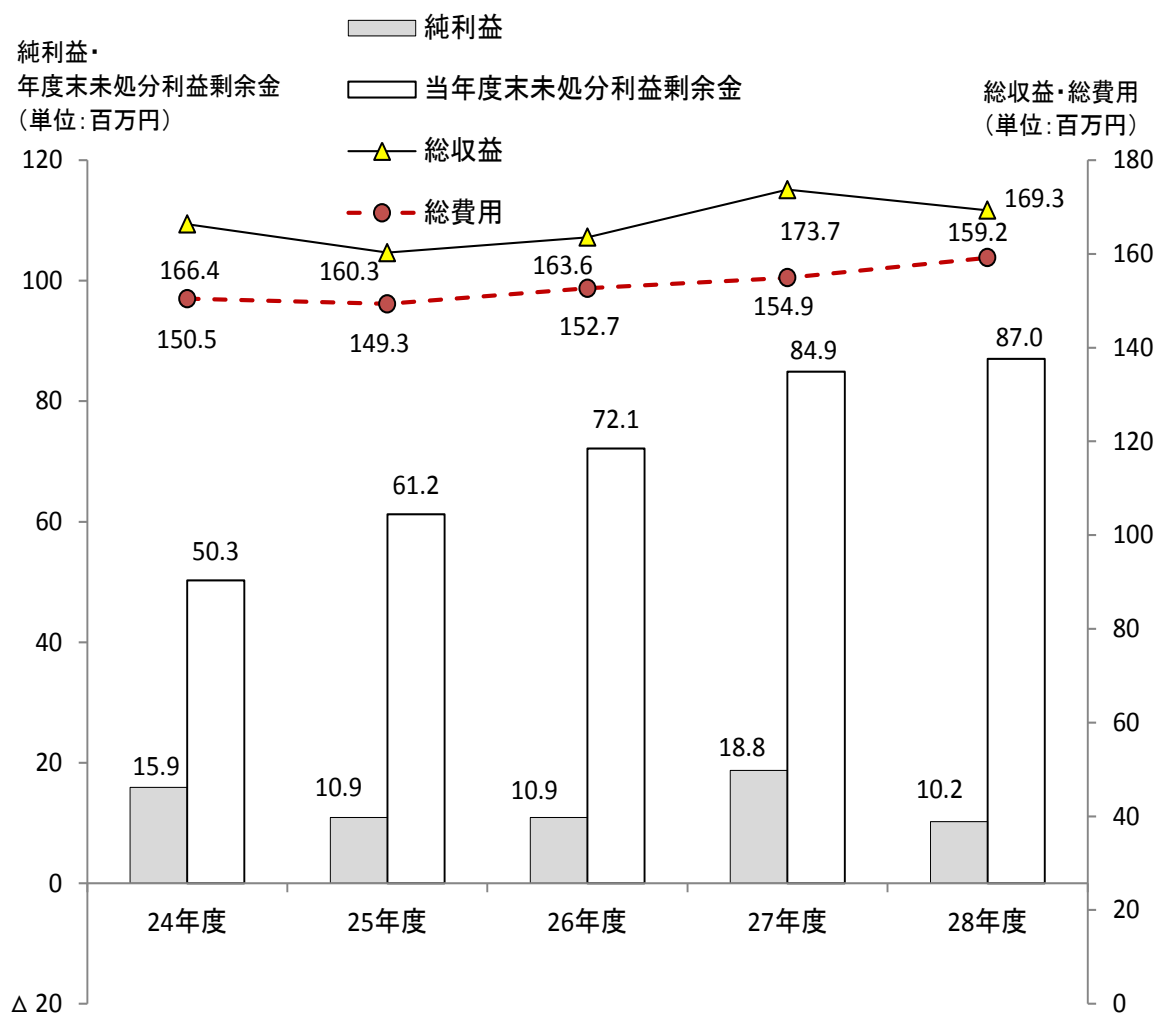
営業利益に営業外収益を加算した経常利益は、1,019 万 1 千円の黒字となった。

特別損失は、前年度に比べて 9 千円 (50.0%) 減少し、9 千円となった。

経常利益から特別損失を控除した当年度純利益は1,018万2千円の黒字となったが、前年度に比べて857万3千円 (45.7%) 減少した。

なお、当年度末処分利益剰余金は 206 万 6 千円 (2.4%) 増加し、8,699 万 5 千円となった。

過去 5 年間の収益費用の推移は、次のとおりである。



2 性質別費用

特別損失以外の費用を性質別に前年度と比較すると次表のとおりである。

費用性質別前年度比較表

(単位：千円、%)

区 分	平成27年度	平成28年度	増減額	増減率
人 件 費	21,650	25,701	4,051	18.7
備 品 消 耗 品 費	376	479	103	27.4
委 託 料	5,151	5,092	△ 59	△ 1.1
賃 借 料	1,461	1,352	△ 109	△ 7.5
修 繕 費	6,021	3,889	△ 2,132	△ 35.4
動 力 費	5,970	6,003	33	0.6
補 償 費	1,869	1,886	17	0.9
報 償 費	440	460	20	4.5
ペットボトル販売原価	1,720	546	△ 1,174	△ 68.3
受 水 費	67,802	67,616	△ 186	△ 0.3
有形固定資産減価償却費	35,224	38,717	3,493	9.9
引当金(給与関係)	1,562	1,665	103	6.6
そ の 他	5,666	5,751	85	1.5
合 計	154,912	159,157	4,245	2.7

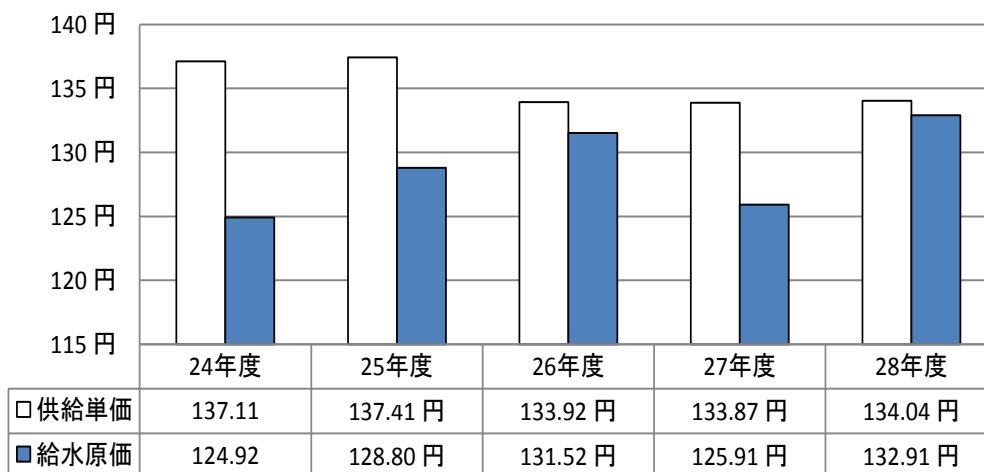
費用合計は、424万5千円(2.7%)増加し、1億5,915万7千円となった。

費用を性質別に見ると、前年度に比べ、人件費が405万1千円(18.7%)、有形固定資産減価償却費が349万3千円(9.9%)増加したことが主な要因である。

3 供給単価及び給水原価

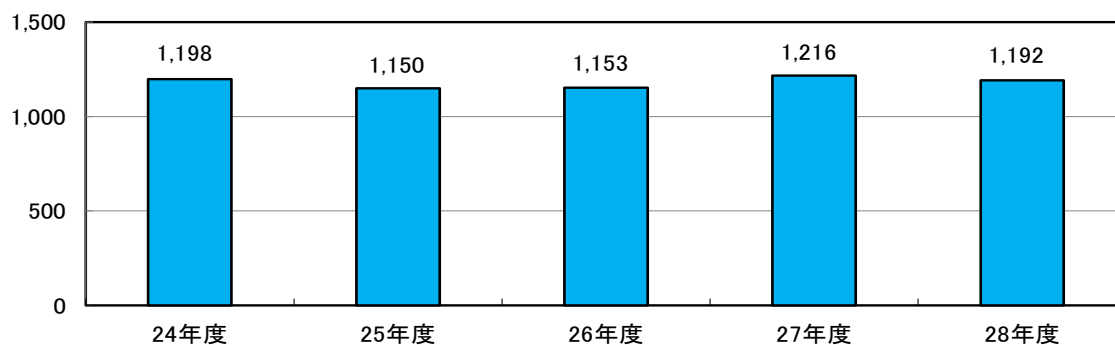
供給単価及び給水原価の推移は次表のとおりである。

供給単価及び給水原価の推移 (有収水量1m³当たり)



4 有収水量の推移

(単位:千 m^3) 有 収 水 量 の 推 移



有収水量については、前年度に比べて23,873 m^3 (2.0%)減少し、119万2,474 m^3 となり、前年度を下回っている。

第4 財政状態について

当年度の貸借対照表を前年度と比較すると次表のとおりである。

貸借対照表前年度比較

(単位:千円、%)

区 分	平成27年度	平成28年度	増減額	増減率
固 定 資 産	1,081,717	1,091,085	9,368	0.9
有形固定資産	1,081,717	1,091,085	9,368	0.9
土 地	145,535	145,535	0	0.0
建 物	59,405	57,466	△ 1,939	△ 3.3
構 築 物	828,455	838,273	9,818	1.2
機 械 及 び 運 搬 具	32,673	34,833	2,160	6.6
工 具 器 具 及 び 備 品	1,914	1,798	△ 116	△ 6.1
建 設 仮 勘 定	13,735	13,180	△ 555	△ 4.0
流 動 資 産	240,409	230,158	△ 10,251	△ 4.3
現 金 預 金	222,523	214,188	△ 8,335	△ 3.7
未 収 金	16,539	15,314	△ 1,225	△ 7.4
貯 蔵 品	1,347	656	△ 691	△ 51.3
資 産 合 計	1,322,126	1,321,243	△ 883	△ 0.1

(単位：千円、%)

区 分	平成27年度	平成28年度	増減額	増減率
固定負債	5,128	5,685	557	10.9
引当金	5,128	5,685	557	10.9
退職給付引当金	1,114	1,671	557	50.0
修繕引当金	4,014	4,014	0	0.0
流動負債	31,432	26,568	△ 4,864	△ 15.5
引当金	1,561	1,665	104	6.7
賞与引当金	1,355	1,400	45	3.3
法定福利費引当金	206	265	59	28.6
未払金	25,164	21,142	△ 4,022	△ 16.0
前受金	195	178	△ 17	△ 8.7
預り金	4,511	3,583	△ 928	△ 20.6
繰延収益	123,593	116,601	△ 6,992	△ 5.7
長期前受金	338,989	338,989	0	0.0
収益化累計額	△ 215,396	△ 222,388	△ 6,992	3.2
負債合計	160,152	148,854	△ 11,298	△ 7.1
資本金	707,616	707,616	0	0.0
自己資本金	677,370	707,616	30,246	4.5
補てん財源処分組入額	30,245	0	△ 30,245	皆減
剰余金	454,358	464,773	10,415	2.3
資本剰余金	40,685	40,918	233	0.6
工事負担金	37,815	38,048	233	0.6
他会計負担金	2,870	2,870	0	0.0
利益剰余金	413,673	423,855	10,182	2.5
利益積立金	24,121	24,121	0	0.0
建設改良積立金	97,343	88,207	△ 9,136	△ 9.4
当年度未処分利益剰余金	76,813	80,004	3,191	4.2
処分済利益剰余金収益化移行処理額	215,396	231,523	16,127	7.5
資本合計	1,161,974	1,172,389	10,415	0.9
負債・資本合計	1,322,127	1,321,243	△ 884	△ 0.1

1 資産

当年度の資産合計は、前年度に比べて88万3千円（0.1%）減少し、13億2,124万3千円となった。

固定資産は、前年度に比べて936万8千円（0.9%）増加し、10億9,108万5千円となった。

流動資産は、前年度に比べて1,025万1千円(4.3%)減少し、2億3,015万8千円となった。

なお、水道料金の収入未済額は1,523万8千円で収納率は91.9%となっている。

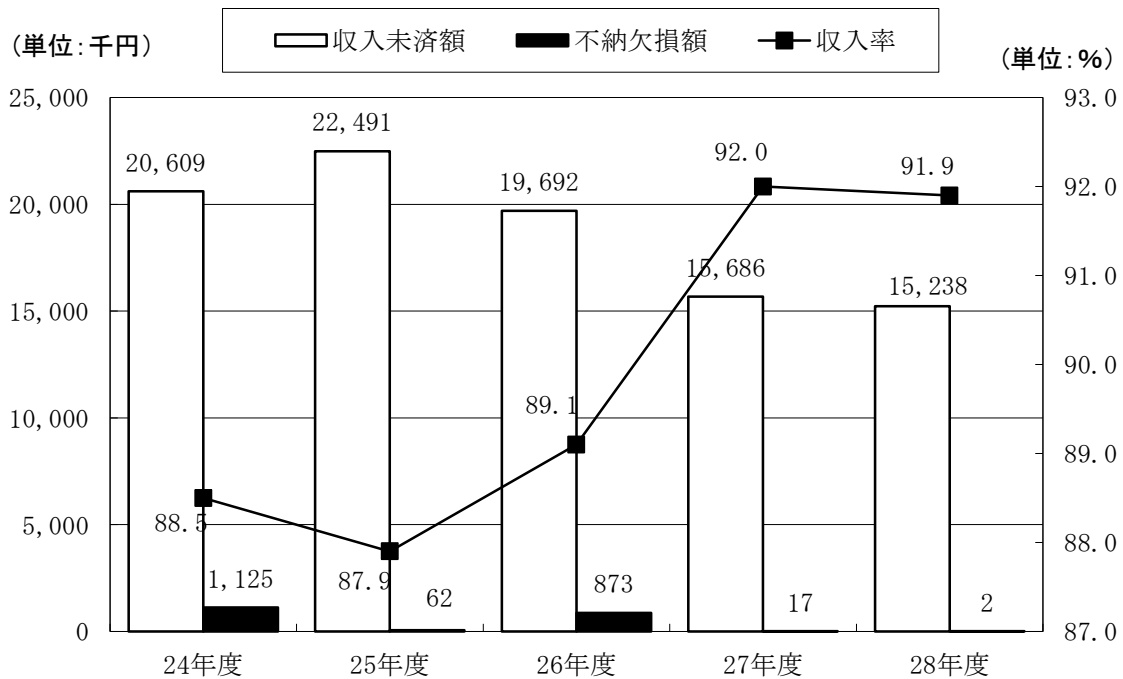
水道料金に係る収納状況の内訳は次表のとおりである。

水道料金収納状況表

(単位：千円、%)

区 分		調定額	収入済額	不納 欠損額	収入未済額	収納率
28	現年度	172,622	157,405	0	15,217	91.2
	過年度	15,686	15,663	2	22	99.9
	計	188,308	173,068	2	15,238	91.9
27	現年度	175,863	160,180	0	15,683	91.1
	過年度	19,690	19,670	17	3	99.9
	計	195,553	179,850	17	15,686	92.0
比 較	現年度	△ 3,241	△ 2,775	0	△ 466	-
	過年度	△ 4,004	△ 4,007	△ 15	19	-
	計	△ 7,245	△ 6,782	△ 15	△ 448	-

収入未済額・不納欠損と収入率の推移



2 負債・資本

当年度の負債合計は前年度に比べて1,129万8千円(7.1%)減少し、1億4,885万4千円となった。

固定負債は、前年度と比べて55万7千円（10.9%）増加し、568万5千円となった。
流動負債は、前年度に比べて486万4千円（15.5%）減少し、2,656万8千円となった。これは主に、工事費等に係る未払金が402万2千円減少したことなどによるものである。
資本金は、7億761万6千円と前年度並みであった。
また剰余金は、1,041万5千円（2.3%）増加し4億6,477万3千円となった。
その結果、当年度の資本合計は前年度に比べて1,041万5千円（0.9%）増加し、11億7,238万9千円となった。

第5 審査のまとめ

1 決算の総括

当年度は、北陸新幹線金沢開業2年目となり、芦原温泉への宿泊客数が前年度に比べ減少したことから有収水量が減少したものである。

その結果、営業収益は前年度に比べて355万3千円（2.1%）減少し1億6,204万5千円となり、当年度純利益は、857万3千円（45.7%）減少し、1,018万2千円となっている。

また、水道事業を取り巻く環境は、施設の修繕や更新等に係る経費の増加が見込まれ、経営の基本である給水収益についても、人口減少等により増収を見込むのは難しい現状にある。

2 審査意見

- (1)平成24年度の料金改定後は黒字経営となっているが、給水区域内の人口は減少し続けている。今後も給水量の推移を注視しながら、経費の節減に努力されたい。
- (2)水道事業は、重要なライフラインであるため、安全で良質な水質の確保、安定供給などの基本的な課題に加えて、施設の更新や耐震化など設備投資が必要となっており、今後も財政的に厳しい状況にある。その状況を十分に認識し、今後の需要予測に基づき事務事業の効率化によるコストの削減を推進し、これらの課題への対応を検討されたい。